

## 終活

JJ1SXA/池

最近やたら「…活」と言う言葉が溢れているようです、就職活動が、「就活」、結婚のための活動が、「婚活」、これに続き「終活」とは人生の終わりに向けて、前向きに準備することで、今をよりよく生きる活動のことだそうです。

世界の長寿国である日本で、高齢化と少子化は進行し続け、また経済的にも厳しい現代で、自分のエンディングに不安を感じる人が多くなったことも事実、同時に、仕事が忙しい我が子や孫に負担をかけたくないという思いを持つ人が増えたこともあり、生まれた言葉が「終活」です。

そんな不安から生まれた発想が今では、自分のエンディングまで自分の理想を考えることができるという楽しみや、我が子や孫に負担をかけずに済む安心感の方が大きくなり、「終活」という言葉は、「残された家族への思いやり」という意味に変わってきたようです。

エンディングノートなどという物も市販されています、今や平均寿命は大きく伸びて、100歳超の人も何万人単位で生きている時代になりました。

「きんさん」「ぎんさん」という100歳のタレントも生まれましたが、あの頃よりずっと100歳超の人は増えています。

余談ですが、勤めていた会社の明治生まれの先輩に、「〇〇鉄次郎」という方がいましたが、長兄は「金一郎」、次の姉が「銀」で次男である本人は「鉄次郎」と名付けられたようですが、すぐ下の弟が「銅三郎」、第5子以下は女で、「鍋」、「釜」だったそうです、思わず笑ってしまいますが、本当の話とのことでした、普通は金、銀、銅、鉄の順になるのではと言ったら、親が間違えたとのこと、それにしても妹さんたちは思いつくままに名付けたようですねと言ったら、女だから適当につけただけだそうで、そういう時代だったのかも知れませんが、親もいい加減なものです。

本題に戻って、「終活」ですが、私本人は、まだそんな気が起きません、とは言ものの、間もなく傘寿の歳になったので、人生のエンディングまで数年あるのか無いのかと思うと、一寸寂しくなってしまいます、不老長寿を望むわけでは無いが、もう少し生きてやりたいこともあります、「終活」は少し先延ばしです。

「終活」もさることながら、今や「生前葬」を執り行う人もいて、どうしたらそんな意識を持てるのか、私には不可解です、死は、誰にでも訪れるものですが、もう何時死んでも良いと悟りを開く方が長生きするのか？私にはそんな感覚にはなれそうもありません、本当はそんなことを言っている場合では無く真剣に考えなくてはいけない時期に来ているのだろうとは思いますが実感が沸きません、こんなことでは、極悪、非道の人生を歩んできたわけでは無いが、もうすこし真面目に考えないと、ちゃんと成仏できないのが落ちか？hi